企業紹介

独創的な開発力とノウハウで
ものづくり企業の原点を極める

# 有限会社豊州モールド

佐伯市をはじめとする大分県南地区といえば、古くから造船、パルプ、セメント、合板といった素材型産業が発展してきたエリアというイメージが強い。しかし近年の産業構造転換により、従来とは違った角度でものづくりに取り組む企業も育っている。小規模ながら独創的な開発力を有する有限会社豊州モールドの伊賀弘文代表取締役を訪ねた。

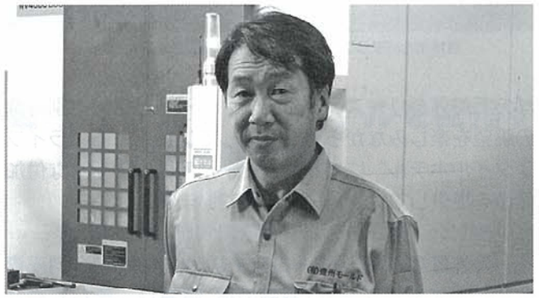
## 県南メカトロ企業のDNAを引き継ぐ

豊州モールドの伊賀弘文代表は、医療機器・医薬品の開発・製造・販売で知られる川澄化学工業株式会社（本社　東京都）佐伯工場で、金型製作に携わっていた。その後、佐伯メカトロセンターの金型部門に従事しながら、引き続き川澄化学工業からの製作業務を受注していた。

ご存知のとおり佐伯メカトロセンターは、1989年に国・大分県・佐伯市・民間企業の出資によって設立された第三セクターだった。“メカトロ”という言葉からも推察できるように、重厚長大型産業から精密・電子機械産業等のメカトロニクス分野を担う加工組立型産業への転換を図るために創設された支援組織である。ところが九州北部に自動車ならびに半導体の大手進出が集中し、その受注先となる多数の加工組立型産業が活況を呈する一方で、県南地区は当初描いていたほどの成果をあげるまでに至らなかった。

当時は東九州自動車道も未開通だったこともあり、地理的ハンディが大きかったのかもしれない。

しかしながら川澄化学工業株式会社、株式会社安川電機（本社　北九州市）といった大手企業が同センターの運営に協力した背景もあり、独創的な開発力を持つ企業が育つインキュベート的な環境も有していた。第三セクター清算後も産業用ロボット部品加工の株式会社サイメックスや、精密板金の株式会社長尾製作所などがそのスピリッツを受け継いだ代表的企業である。佐伯メカトロセンターから分社した豊州モールドは、この2社と比較すると企業規模こそ小さいが、そのDNAを有したものづくり企業といえる。


豊州モールド工場で同社が手がける金型を説明する伊賀代表

ロードバイク専用駐輪スタンド『KACOOL』の開発に寄与

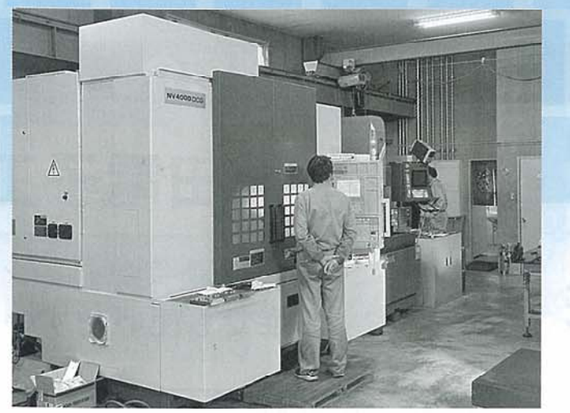
道の駅みえに設置された『KACOOL』は使い勝手がいいと評判

## 医療機器の金型で独自のポジションを築く

豊州モールドは、その社名にあるように各種金型・治具・装置の製作を行うものづくり企業であり、設立当初から伊賀代表が在籍していた川澄化学工業の受注をメインに取り組んできた。たとえば点滴で生理食塩水を入れるバックの金型をはじめ医療用射出成形金型、医療用ウエルダー金型といった医療現場で使われる金型製作を生業とする同社のような企業は九州でも稀有な存在であり、その突出した技術力は高く評価されている。

医療用金型は、自動車や半導体産業で使われる金型とは違う側面も多数ある。たとえば金型の合わせ面であるパーティングラインに樹脂等の成形材料が溢れる、いわゆる「バリ」の取り扱いも特殊だ。人体と接触する器具の場合、バリの発生が極端に嫌われる。このためエアベント、密着代など非常にデリケートなノウハウが求められるという。これらを含め広範囲にわたって、長年積み上げた実績を有している豊州モールドならではの特殊なノウハウが注がれるのである。

ワンチャー社のチタン製万年筆にも当社の技術が注がれている


ものづくり補助金で導入したマシニングセンタ

一方で、その社員数はわずか2名。少数精鋭ではあるが、特殊分野に特化している分唯一無比のスキルを会得しており、職人肌の若手社員のモチベーションも高く、何よりも小回りが利く。マシニングセンタや各種機器が効率よくレイアウトされた同社工場では、手際よく稼働させている社員の姿が見られた。

## ニッチな分野に活路を見出す、その先にあるもの

医療用器具の金型で特殊な地位を確保してきた同社であるが、近年は川澄化学工業の製品構成が変化したことに伴い、その受注量が減少傾向にあるという。

そこで伊賀代表は、新分野での製品開発に力を入れ始めた。ただし競争が激しい自動車や半導体分野ではなくニッチな分野での開発に活路を見出し、製品化に悩んでいる企業各社への提案を心がけている。

西日本電線株式会社のゴム成型を手がける株式会社カワベ（本社　豊後大野市）が開発したロードバイク専用駐輪スタンド『KACOOL（カクール）』（特許出願中）は、同社の技術なしでは成立しなかった。「カワベ」の電力用ゴム成型製品の金型を担当していた同社だが、ロードバイクを趣味に持つカワベの社長から相談を持ちかけられ、本製品の設計・試作・加工治具などで製品開発に協力した。その仕組みは、専用ポールを地面に固定し、先端フックに自転車のサドルを乗せ、ポール中央の穴にワイヤー錠を通してロックするというもの。既に豊後大野市の道の駅やカフェに設置されているが、ロードバイク・ブームが盛り上がるなか、製造販売元となるカワベには自治体やスポーツ施設からの問い合わせが届いている。

設計段階から手がける一貫体制を確立

高級万年筆や腕時計が世界中から人気を集める株式会社ワンチャー（本社　豊後高田市）が販売中のチタン製万年筆にも、同社の金型技術が貢献している。軸が薄くて極小というデリケートな造りの万年筆で、微細な傷にも細心の注意を払わなければならない製品。ハンドメイドの風合いもあわせて表現するという、ものづくり職人にとっては「やりがいのある仕事」と伊賀代表は語る。

伊賀代表本人の趣味である狩猟やアウトドア関連製品の開発も、特筆ものである。カスタムナイフの製作や燻製装置など、かなり趣味性の高いニッチ分野ではあるが、少数ながらも高価格でも購入したいという富裕層やマニア層の市場も成立しており、これが“職人魂”に火をつけているようだ。

ロボット関連のパーツ製品開発にもチャレンジしているという伊賀代表。異彩を放つ豊州モールドの意欲的な開発姿勢に、ものづくりの原点とも言われる金型事業へのプライドを感じざるを得なかった。

### ■ 企業データ

| | |
|---|---|
| 会社名 | 有限会社豊州モールド |
| 代表者 | 代表取締役　伊賀　弘文 |
| 所在地 | 佐伯市大字堅田3905番地の1<br>TEL 0972−22−9251<br>FAX 0972−22−9257 |
| 設立 | 2001年（平成13年） |
| 資本金 | 300万円 |
| 従業員数 | 2名 |
| 事業内容 | 射出成型金型、ゴム金型、その他金型、機械加工 |